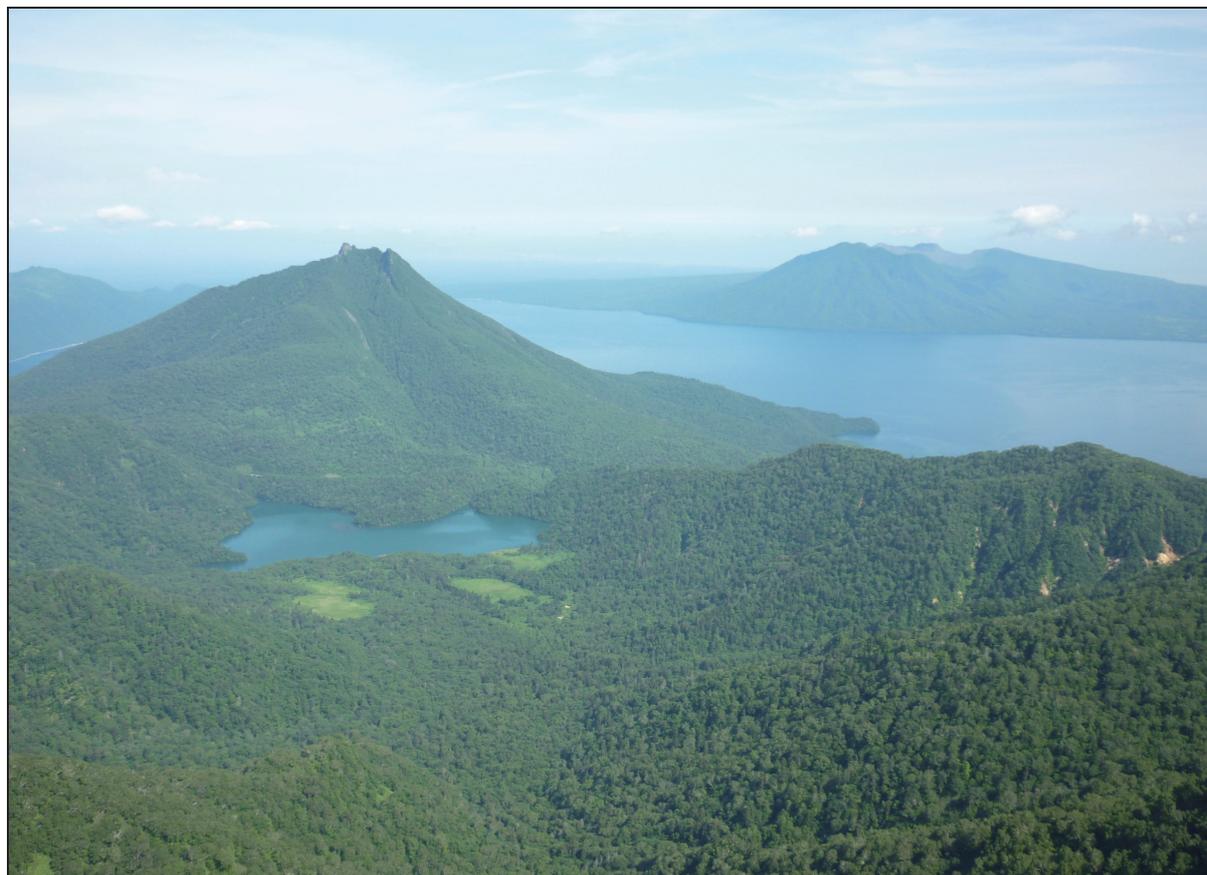


13. 恵庭岳 Eniwadake

北緯 42° 47' 36" 東経 141° 17' 07" 標高 1,320m (恵庭岳) (三角点)



恵庭岳全景 北西側上空から 2011年7月19日 気象庁撮影

概要

支笏カルデラの北西壁内側に生じた安山岩 (SiO_2 量 56.0~65.0 wt.%) の後カルデラ火山。直径約 5km、比高 1.1km。大規模な軽石噴火(最大のものは約 2 万年前)と安山岩の溶岩流出によって山体が形成された(中川・他 1994b)。山頂東側の爆裂火口で噴気が認められる。

写真



山頂東側の爆裂火口 東側上空から
2008年6月18日 気象庁撮影



山頂東側の爆裂火口 東側上空から
2010年12月6日 気象庁撮影

火口周辺図

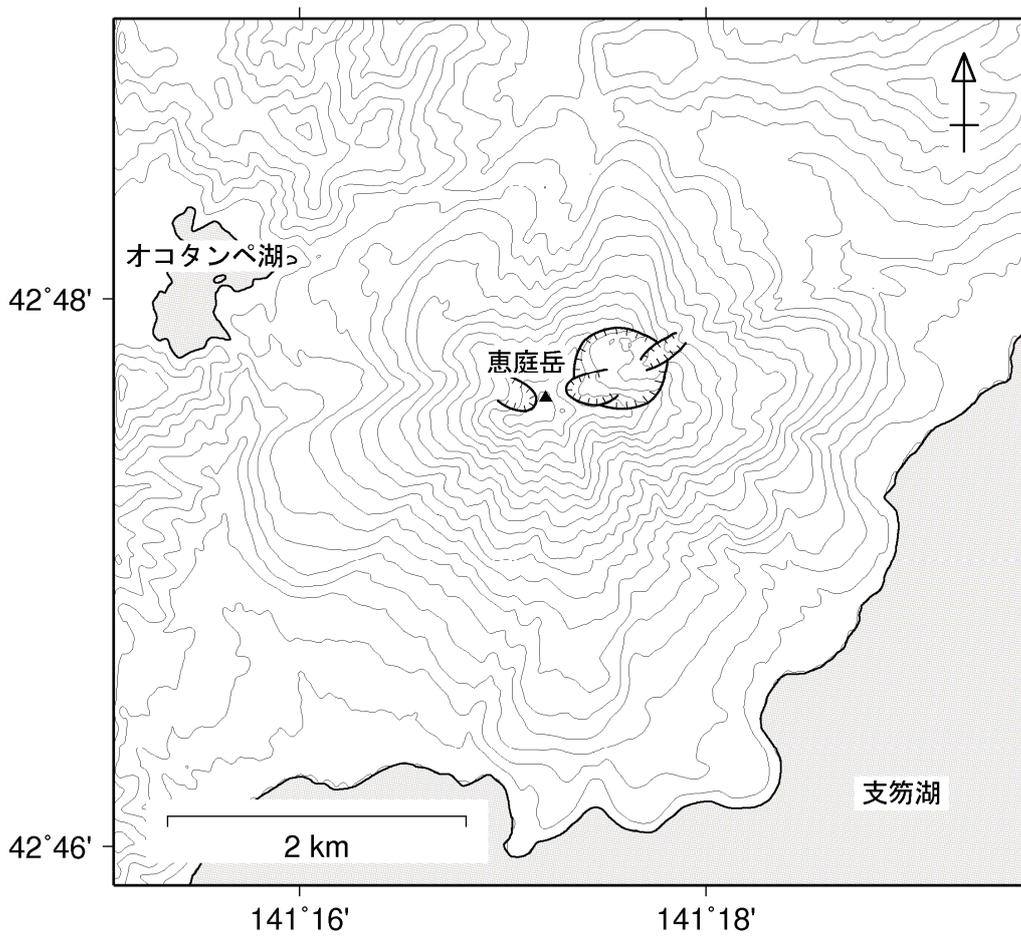


図 13-1 火口周辺図

地形図

樽前山を参照

噴火活動史

・過去1万年間の噴火活動

約2万年前の大規模な軽石噴火以降(加藤・他, 1995)、山頂付近や山体の東麓や西麓において、溶岩ドームの形成や溶岩の流出が続いた。恵庭火山における最後のマグマ噴火は約2000年前である。

約1700年間の休止期の後、17世紀はじめに山頂部で水蒸気噴火が発生し、山頂東部が崩壊して爆裂火口を形成した。崩壊物は岩屑なだれとなって山体を流下し、支笏湖に流入した。その後、約150年の間に少なくとも2回の水蒸気噴火があり、それに伴う土石流が発生している(中川・他, 1994a; 中川, 1998)。

| 噴火年代 | 噴火場所 | 噴火様式 | 主な現象・マグマ噴出量 |
|-------------------------------|-------------------------|------------------------|---------------------------------------|
| 2.2←→2ka ^{1,2,3} | 山頂および山体北西麓 ² | マグマ噴火 ^{1,2,3} | 溶岩流、火砕物降下 ^{1,2,3} 。 |
| 2ka> ³ | 不明 ² | 不明 ² | 山頂西方で山体崩壊。岩屑なだれが支笏湖に流入 ² 。 |
| 0.5←→0.4ka ² | 山頂火口 ² | 水蒸気噴火 ² | 岩屑なだれが支笏湖に流入 ² 。 |
| 0.5←→0.3ka ² | 山頂火口 ² | 水蒸気噴火 ² | 土石流 ² 。 |
| 0.4←→ 0.261ka ² | 山頂火口 ² | 水蒸気噴火 ² | 土石流 ² 。 |

※噴火イベントの年代、噴火場所、噴火様式等については、(独)産業技術総合研究所の活火山データベース(工藤・星住, 2006-)を参考とした。なお、年代は暦年代で示す。表中の「ka」は「1000年前」を意味し、西暦2000年を0 kaとして示した。

A←→B: A年からB年までの間のどこかで起こった噴火イベント

A>: A年以降に起こった噴火イベント

・有史以降の火山活動

| 年代 | 現象 | 活動経過・被害状況等 |
|--------------------------|----|----------------------------------|
| 1981(昭和56)年 ⁴ | 地震 | 10月山体付近で地震群発(有感あり)。 ⁴ |

【引用文献】

1. 中村忠寿 (1973) 恵庭火山の中期噴出物の¹⁴C年代, 地球科学, **27**, 42-43.
2. 中川光弘・他 (1994) 後支笏カルデラ, 恵庭火山の最新の噴火活動. 火山, **39**, 237-241.
3. 中川光弘 (1998) 恵庭火山-札幌からいちばん近い活火山をたずねて-. 高橋正樹・小林哲夫編「フィールドガイド 日本の火山-3, 北海道の火山」, 築地書館, 62-75.
4. 本谷義信・岡田 弘 (1986) 1981年恵庭岳地震群の調査報告. 北海道大学地球物理学研究報告, **47**, 17-31.

全岩化学組成

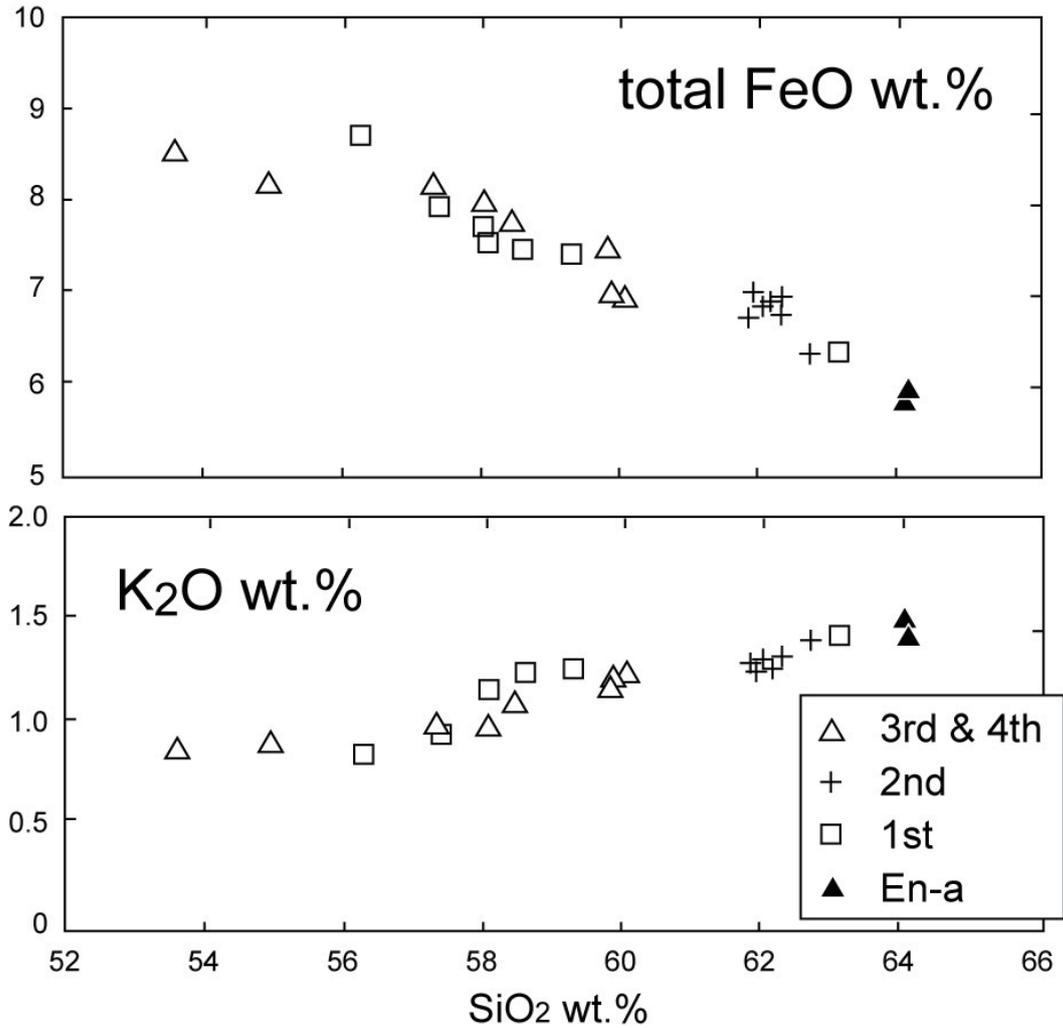


図 13-2 恵庭火山噴出物の全岩化学組成ハーカー図 (中川, 1993)

主な火山活動

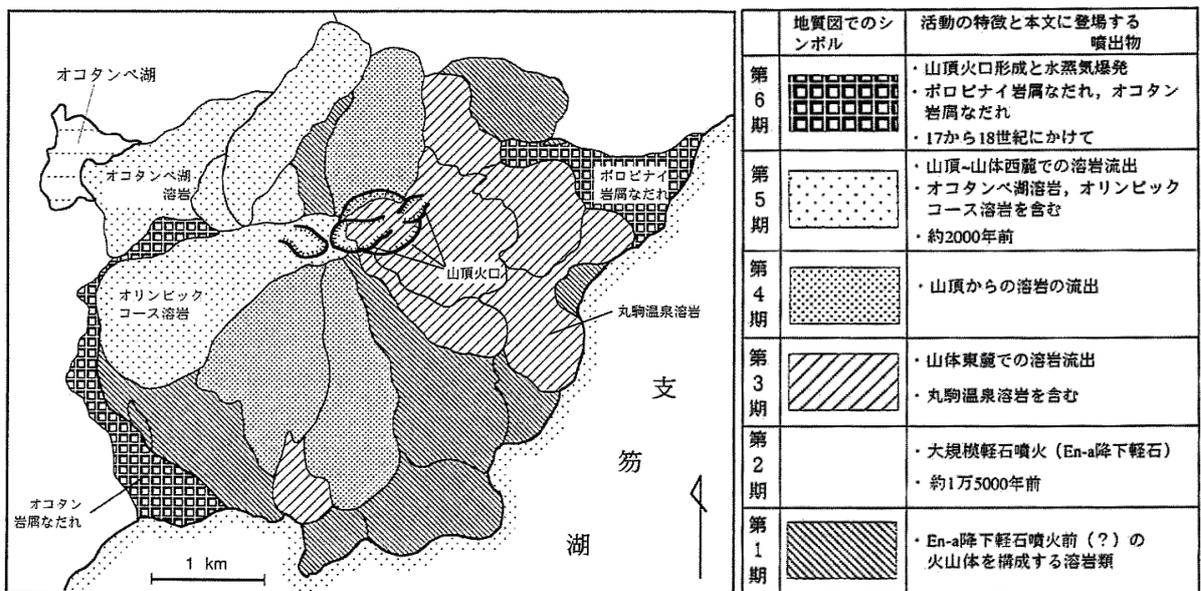


図 13-3 17~18世紀の噴火で形成された山頂火口と発生した岩屑なだれの分布 (中川, 1998)

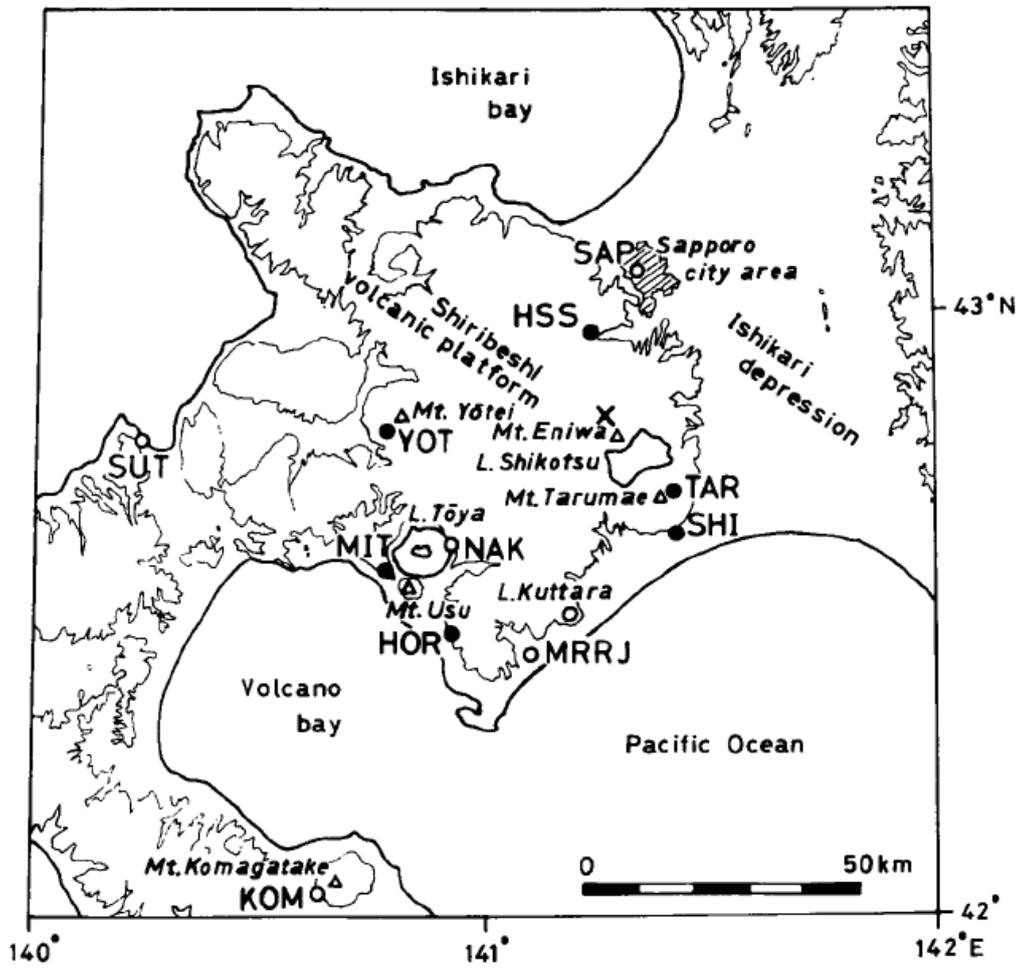


図 13-4 1981 年 10 月 18 日の地震震央図(本谷・岡田, 1986)

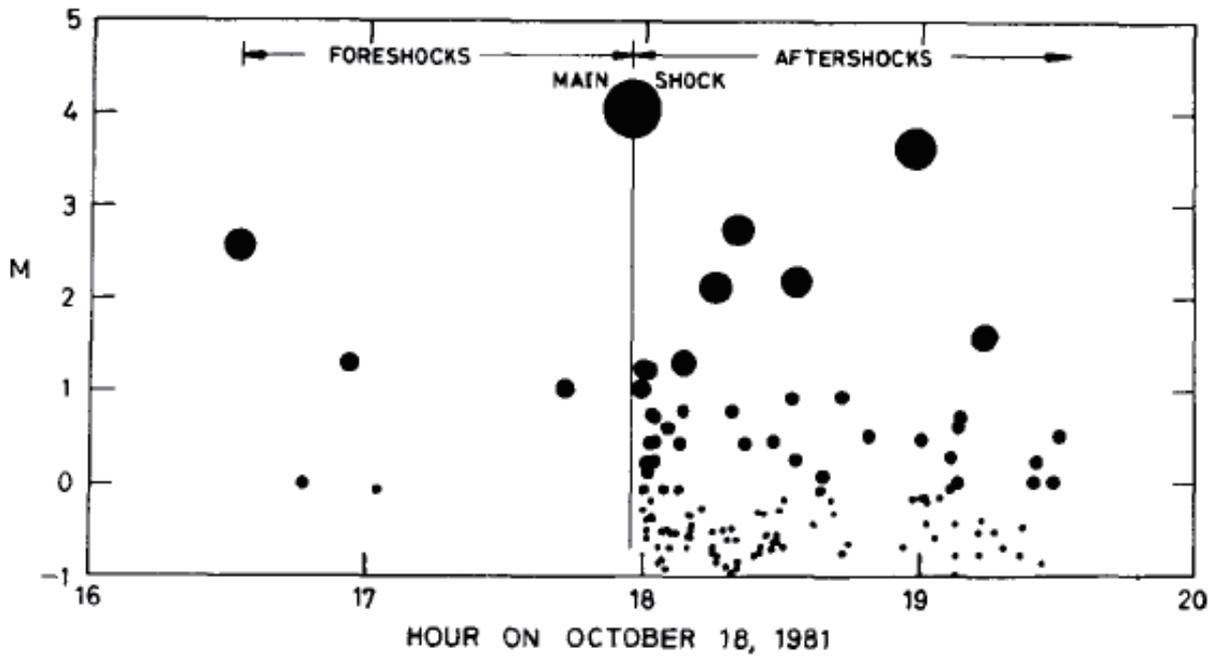


図 13-5 1981 年 10 月の地震発生時系列(本谷・岡田, 1986)

近年の火山活動

樽前山 地震活動を参照

防災に関する情報

①火山防災協議会

なし

②火山ハザードマップ等

なし

③避難実績及び入山規制等の実績

・避難状況

なし

・登山規制の状況

平成 15 年 9 月 26 日に発生した十勝沖地震により山頂の一部が崩落し、現在も山頂部の崩落が進んでいることから、第 2 見晴台(8 合目と 9 合目の間に位置)より上は登山禁止。ただし、火山活動に起因する過去の規制なし。

社会条件等

①人口

- ・恵庭市： 68,935 人 (平成 23 年 10 月 31 日現在)
- ・千歳市： 94,292 人 (平成 23 年 11 月 1 日現在)

②国立・国定公園・登山者数等

・支笏洞爺国立公園

年間観光客数：恵庭市 1,224,100 人
：千歳市 4,894,500 人

(北海道観光局 平成 22 年度北海道観光入込客数調査結果より)

年間登山者数： 5,738 人(H22 登山者名簿より)

③付近の公共機関

| 機関・部署名 | 所在地 | 電話番号 |
|----------|-------------|--------------|
| 千歳市役所 | 千歳市東雲町 2-34 | 0123-24-3131 |
| 千歳市支笏湖支所 | 千歳市支笏湖温泉 3 | 0123-25-2004 |
| 恵庭市役所 | 恵庭市京町 1 | 0123-33-3131 |

④主要交通網

- ・道央自動車道、国道 36 号線、国道 276 号線、国道 453 号線、道道 78 号線、道道 730 号線
- ・JR 室蘭本線、JR 千歳線

⑤関連施設

千歳市支笏湖温泉

- ・環境省支笏湖ビジターセンター

関係する主な気象官署

| 機関・部署名 | 所在地 | 電話番号 |
|---------------|--------------------------------|--------------|
| 札幌火山監視・情報センター | (札幌管区气象台) 札幌市中央区北 2 条西 18 丁目 2 | 011-611-2421 |

気象庁および大学等関係機関の観測網

樽前山 観測点配置図を参照

引用文献

- 加藤茂弘・他 (1995) 支笏・くつたら両火山起源のテフラに関する加速器質量分析(AMS)法による ^{14}C 年代, 第四紀研究, **34**, 309-313.
- 本谷義信・岡田 弘 (1986) 1981 年恵庭岳地震群の調査報告, 北海道大学地球物理学研究報告, **47**, 17-31.
- 中川光弘 (1993) 後支笏カルデラ火山群の形成史・活動様式及びマグマ系. 研究計画「火山災害の規模と特性」報告書, 文部省科学研究費自然災害特別研究. (代表者: 荒牧重雄), 27-42.
- 中川光弘 (1998) 恵庭火山, 札幌からいちばん近い活火山をたずねて, 北海道の火山, フィールドガイド日本の火山③, 築地書店, 62-76.
- 中川光弘・他 (1994) 後支笏カルデラ・恵庭火山の最新の噴火活動, 火山, **39**, 237-241.
- 中川光弘・他 (1994b) カルデラと後カルデラ火山: 南西北海道, 支笏カルデラとクツタラ火山群, 日本地質学会第 101 年学術大会見学旅行案内書, 17-34.
- 中村忠寿 (1973) 恵庭火山の中期噴出物の ^{14}C 年代, 地球科学, **27**, 42-43.